PRESS RELEASE

2023年9月1日

株式会社 東海理化

東海理化、遠隔監視システム
川崎市で実施する自動運転バスの実証実験に参画

株式会社東海理化（本社：愛知県丹羽郡大口町　代表取締役社長：二之夕　裕美)は、川崎鶴見臨港バス株式会社（本社：神奈川県川崎市　取締役社長：平位　武）が代表幹事を務める、KAWASAKI 新モビリティサービス実証実験協議会実施の「2023KAWASAKI 新モビリティサービス実証実験」において、自動運転バスの実証実験に参画いたします。

「2023KAWASAKI 新モビリティサービス実証実験」は国土交通省令和 5 年度共創モデル実証プロジェクトの採択を受け、川崎区内で自動運転バスの実証実験運行が実施されます。
(詳細は参考（川崎鶴見臨港バス株式会社発表資料抜粋）『「2023KAWASAKI 新モビリティサービス実証実験」自動運転バスの実証実験について』をご参照ください。)

当社は自動運転バス車両外に取付けた複数台のカメラの映像を合成処理し、映像品質を維持したまま低遅延な伝送を可能にした、監視者の負担が少ない、安心・安全な遠隔監視システムの実用化を推進します。当社はこれからも、地域交通への取り組みを通じて、自動運転車の社会実装実現を技術面で支えます。

＜本件に関するお問い合わせ先＞
株式会社東海理化 総務部広報室（0587－95－5211）

参考（川崎鶴見臨港バス株式会社発表資料抜粋）

「2023KAWASAKI 新モビリティサービス実証実験」自動運転バスの実証実験について

自動運転バス実証実験運行について

川崎の交通における大動脈である産業道路において行われる自動運転バスの実証実験は、将来的な社会実装を見据えながら、まずはバス運転者の負担軽減を目指しレベル２での実証実験運行を行います。
なお、大型バスを使用した自動運転バスの実証実験運行は川崎市内では初めてとなります。

●自動運転バス実証実験概要

（１）実施期間：２０２３年１０月２３日（月）～２７日（金）
（２）実証区間：臨港バス塩浜営業所～産業道路～大師橋駅
（３）車　　両：日野レインボーⅡをベースとした自動運転バス
（定員：運転席　１名、座席　２４名）
※埼玉工業大学が開発する車両を使用します
（４）運行便数：１日６往復（運行時間：９：００～１７：００）
※今回は技術検証を目的としており、一般のお客様はご乗車できません。ご了承ください。
※当日の天候や車両のメンテナンス状況などにより運行予定が変更となる場合がございます。
（５）自動運転レベル：レベル２：運転士が乗車し、状況に応じて自動・手動を切替えて運転いたします。

自動運転バス実証実験運行の役割について

参加予定企業名		主な役割
川崎鶴見臨港バス株式会社		実証全体管理、コーディネート運行管理、及び、保安ドライバー
アイサンテクノロジー株式会社		高精度３次元地図作成、運行支援
	A-Drive株式会社	自動運転サービスの社会実装支援
	株式会社東海理化	**遠隔監視システム**
	埼玉工業大学	車両技術提供
	損害保険ジャパン株式会社	自動運転リスクアセスメントの提供
	ＳＯＭＰＯリスクマネジメント株式会社	自動運転リスクアセスメントの提供

自動運転車両について

自動運転システム	Autoware（ティアフォー）
乗車定員	58名（23名）実証時は最大18名程度を予定
装備品	LiDAR：5機、GNSS：2機、IMU：1機 カメラ：1機（信号認識・物体認識） 遠隔システムカメラ　車室外：10機　車室内：5機
走行方法	GNSS＋3Dマップ方式
各種システム	高精度3次元地図（アイサンテクノロジー） **遠隔監視システム（東海理化）**
運行体制	保安ドライバー（川崎鶴見臨港バス） オペレーター（アイサンテクノロジー）

●Autoware…自動運転システム用のオープンソフトウェア。Autoware は、The Autoware Foundation の商標です。
●LiDAR(ライダー)…対象物に光を照射し，その反射光を光センサーでとらえ物の位置や距離を測定します。
●GNSS…GPS を含む衛星測位システムで、地球上の任意の位置を正確に特定するために使用される位置情報サービスの総称
●IMU…機体の姿勢制御を行うためのセンサー